



ももとせ

第425号
29年度2月
中野区立桃園小学校



「道徳と自尊感情」

副校長 井上 江見子

昭和33年に道徳が教育課程に位置付けられました。60年にも及ぶ日本の教育です。来年度からこの道徳が大きく変わります。教科化により、一面的な見方から多面的・多角的な見方へ発展しているか、自分の生き方について考えを深めているかを評価します。子供たちがよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、年間35時間（1年生は34時間）の道徳の授業だけでなく、学校の教育活動全体を通して行い、道徳的判断力、心情、実践意欲を育てることを目指しています。

道徳性を養うためには、自分自身を振り返り、自他を認めること、つまり他者理解や自尊感情を高めることが重要になってくると考えます。このような心の教育を行うには、子供たちをどう育てていけばよいのでしょうか。ヒントになる言葉を一部引用して紹介します。世界で愛読され、日本でもベストセラーになったので、どこかで触れたことがあるかもしれません。（翻訳者によって表現が異なります）

「子どもが育つ魔法の言葉」

作 ドロシー・ロー・ノルト
訳 吉永 宏

批判ばかり受けて育った子は 非難ばかりします
敵意に満ちた中で育った子は 誰とでも戦います
心が寛大な人の中で育った子は 我慢強くなります
励ましを受けて育った子は 自信をもちます
ほめられる中で育った子は いつも感謝することを知ります
公明正大な中で育った子は 正義心をもちます
人に認めてもらえる中で育った子は 自分を大事にします

自分に自信をもち、自尊感情（自分を大切に思う気持ち）を育てることは、自分は自分でしなく、ありのままでよいと思えることです。自分なんて…と思うのではなく、生まれてきてよかったと思えることが大切なのです。

生まれてきてよかったと思える基本的な自尊感情をミルフィーユの様に積み重ねていくとよいのです。そして、この土台の上に一緒に笑ったり泣いたりする共有体験を積み重ねていくことで、より自尊感情が高まるのです。学校での道徳教育や家庭の子育てを通じて、子供たちの自尊感情を高めていきたいものです。

＜いじめ防止対応について＞

本校では、都・区の方針を踏まえて「いじめ調査」を行っております。日常生活の中でのトラブルに対しましては、「学校いじめ対策委員会」での協議の下、教員が指導し、発展しないようにしています。いじめ防止には、ご家庭のご理解とご協力が欠かせません。いつもと違う、何か感じることはありませんか。すぐに担任にご相談ください。また、最近はSNSの問題がクローズアップされています。いじめや犯罪に巻き込まれないためにも使用方法など、ご家庭でも話し合ってください。

ご家庭と学校が連携して、今後もいじめ防止に取り組んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

今月のめあて

- 【生活】 友達の良いところを見つけよう
- 【保健】 心の健康について考えよう
- 【給食】 バランスのよい食事をしよう
- 【安全】 休憩時間を安全に過ごそう

